

令和 7 年度大阪狭山市水循環協議会（第 1 回） 議事録

開催日時	令和 8 年 2 月 1 8 日（水） 1 0 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分
開催場所	大阪狭山市役所 3 階 議会委員会室
出席者	遠藤崇浩委員（会長）、松尾薫委員（副会長）、 菊屋英一委員、西井兼一委員、松原一弘委員、松川元英委員、岡田秀樹委員、 杉田和繁委員、角谷敦司委員、武内大育委員、上田幸男委員
欠席者	木村匡臣委員、中辻功委員、山下孝光委員
事務局	水政策部長、水政策部次長、水政策部下水道・水路グループ課長、水政策部 下水道・水路グループ課長補佐、水政策部下水道・水路グループ主任、水政 策部下水道・水路グループ主事
傍聴者	なし
議題(案件)	1 開 会 2 委員のご紹介 （1）委員のご紹介 （2）役員の改選 3 大阪狭山市水循環計画の改定について 4 施策カルテの情報共有について 5 その他 （1）今年度の水循環計画に係る活動報告
配布資料 一覧	次第 令和 7 年度 大阪狭山市水循環協議会出席者名簿 令和 7 年度 大阪狭山市水循環協議会説明資料 大阪狭山市水循環計画 施策カルテ 大阪狭山市全図（施策カルテ反映）

議事（概要）	
発言者	要旨
事務局	○ 開会 (略)
事務局	○ 大阪狭山市水循環協議会 委員及び同事務局の紹介 ○ 出席者は11名であり、大阪狭山市水循環協議会規則（以下、「規則」という。）第6条第3項の規定により、会議は成立。
事務局	○ 大阪狭山市水循環協議会 会長及び副会長について 規則第5条第2項の規定により、会長は大阪公立大学の遠藤 崇浩委員、副会長は松尾 薫委員にそれぞれ決定した。
	3 大阪狭山市水循環計画の推進について 説明資料に基づき、事務局が説明し、質疑応答、意見等があった。
会長	○ 次回の中間見直しに向けて、令和8年度から準備を進めていく予定とのことだが、大阪狭山市は重点項目4つのポイントのうち、どの項目に力を入れるのか？
事務局	○ 4つとも重要ではあるが、災害時の水源確保の観点から、「1. 代替性・多重性等による安定した水供給の確保」に力を入れる予定である。
	4 施策カルテの情報共有について 説明資料に基づき、事務局が施策カルテの概要を説明し、各委員の取組事項を情報共有した。
会長	○ カルテについて、情報共有のため、各団体の活動について発表をお願いします。
委員	○ 一つ事業として、陶器山元気ウォーキングを毎年行っており、コースの中に水辺を取り入れて行っている。今年は3月末にイベント開催を予定している。参加者は約200人、スタッフが約100人で300から400人ぐらいを目標としている。 ○ 一つ気になる点として、地域とのかかわりについて、こどもは地域みら

	い学習を行っているが、大人が気づきにくい部分がある。市民一体となって事業を進めるなら、広報の在り方について、もう少し考える必要がある。施策カルテにも広報があり、水循環活動に参加しやすくなるようにと記載されているが、参加したうえで次の活動に繋がるような、地域との具体的な関わりが分かるような広報の仕方を皆さんと協議して、前に進めたらと思っている。
会長	○ 広報に対する考え方は非常に重要だと思う。先日訪れた地方では、高齢化が進み、世代交代があまり行われず、活動が縮小していたため、広報の仕方は重要と考える。
委員	○ 第三中学校区まちづくり円卓会議の主な活動は、三津屋川アドプトリバーとして、河川の清掃を、南中円卓会議と協力して行っている。昔は我々が草刈りを行っていたが、最近は大阪府に河川の草刈りを行ってもらった後、清掃活動を行っている。二つの円卓会議のほかにも商工会の婦人会にも来てもらって、活動が続けている。
事務局	○ 先ほど市長が発言した、子ども未来フォーラムで第三中学校の生徒から水循環に関する質問があった。アドプトリバーに子どもたちが参加できるように教育委員会を通じて依頼しようとしていますが、いかがでしょうか。
委員	○ 参加するのであれば、第三中学校まちづくり円卓会議だけでなく、南中まちづくり円卓会議も一緒に行いたい。
委員	○ 昔は帝塚山学院大学の生徒もボランティアで参加してくれていたが、大学が移転してから参加する人がいなくなってしまった。そこに中学生が参加してくれるのは良いと思うが、我々が心配するのは、作業中に怪我された場合です。学校から人を呼ぶからには責任を持たないといけない。そこをどうするか。また、先ほど帝塚山学院大学の話がありましたが、帝塚山学院大学は市と協定を結んでおり、様々なイベントに参加してくれていた。
会長	○ 若い人が参加してくれることは良いことだと思う。是非話を進めていただきたい。

委員	○ 狭山中学校区円卓会議の場合、まさしく狭山池を中心としたエリアであり、狭山中円卓が主体となってやる活動というよりは、地域で行っている狭山池祭りや狭山池クリーンアクションの活動をお知らせし、自分たちの地域清掃の一環として参加している。また、エリア内に収容人数1200人のさやかホールがあり、地域の方々に声をかけて、間接的に地域コミュニティ形成を行っている。また、交流を広げるために地域の方々と研修会に参加している。
委員	○ 狭山池まつり実行委員会の令和7年度事業を報告する。昨年4月26、27日の2日間で狭山池祭りを行い、4万9千人集まった。もっと狭山池に興味を持っていただくため、狭山池に観葉植物を植えるバタフライガーデンを行った。しかし高齢化が進んでいるため、ボランティアを募集したところ、3人参加してくれたが、厳しい状況である。 また、狭山池クリーンアクションを行っており、先月連続307回を達成できた。前委員の山村さんのご紹介もあり、東小学校6年生の子供たちが昨年9月から何名か来てくれている。子ども未来フォーラム関係なく来てくれていると思っている。これからも子どもたちの参加を楽しみにしている。 また、さやりんベースをカルテに入れたと思っている。朝一に野菜を売っている農家の方に声掛けをし、野菜販売を毎週行っている。その野菜や果物目当てに、大阪狭山市民以外の方も来ており、事業拡大をしたいと思っている。
会長	○ 個人的にはバタフライガーデンに興味を持った。蝶は一年中いるか？
委員	○ 私は実際中に入っていないので、詳しくは分からないが、最初の方に比べると蝶の数が減っていることは聞いている。
会長	○ 大阪公立大学で演習授業があり、一緒に行っている先生が毎年、虫の観察会を夏休みに行っており、小学生に非常に人気があり、募集定員がすぐいっぱいになる。小学生が参加すると、必然的に親も参加することになるため、虫や魚など、子どもが興味を持つようなPRをすれば、参加人数の増加に繋がるかもしれない。

委員	○ 観察会ということで皆さんに声かけはしているが、実際はあまり集まらない。もうちょっとPRをすれば、集まってくれるのかなと思う。スタッフとして一緒にやっていけたら良い。
委員	○ 補足として、さやりんベースでたくさんの蝶を標本にしている。野菜を買いに来た親子連れの子どもが、その標本に興味を持つことがある。
委員	○ 大阪府南部流域下水道事務所として全体的な話をさせていただく。事務所本部は貝塚にあり、南河内の大和川流域と泉州地域の南大阪湾岸流域、二つの流域下水道の事業を担当している。事務所としては松原に今池水みらいセンターがあり、藤井寺に大井水みらいセンターがあり、大阪狭山市に狭山水みらいセンターがあり、あと湾岸の方に北部、中部、南部に6箇所の水みらいセンターがある。 狭山水みらいセンターは大阪狭山市はもちろん、河内長野市、富田林市の3市の下水の処理をしている。大体20万人ぐらい住んでおり、98%ぐらい下水道普及しておりますので、19万6千人ぐらいに使っていただいている。1日あたり大体6万m³を処理しており、25mプールで200杯あたりになる。 この水みらいセンターも、毎年小学生や一般の方に見学に来ていただいている。小学生は河内長野市や富田林の方からも400人ぐらい来ている。高度処理した水を利用したせせらぎの丘、水処理施設の上を公園化したかがやきの丘も一般開放している。この施設間に太陽光パネルを設置しており、災害時にも処理施設が最低限動けるようになっており、普段は売電をしている。より一層狭山水みらいセンターの広報に力を入れて知ってもらえるようにしたい。
会長	○ 施設等再編や官民連携による上下水道一体での最適で持続可能な上下水道への再構築という国の方針が良く分からず、「取組例として上下水道施設等の広域化を推進するとともに、分散型システムを活用」の部分について下水道としてはどう考えていますか。
委員	○ 国土交通省は広域化・分散化と書いてありますが、下水道は人口密度が高い方が効率が良く、この先人口が減っていく中、経営という面でみる

	と当然使用料が減っていき、回収できない、経営できないということになる。本来受益者負担という考え方があり、一般会計から税金を補填することになる。人口密度が低いところは計画から切り離して、浄化槽などで対応すると、それが分散化になる。広域化は全体的に技術者が少なくなっていくなか、町単独村単独で下水道を整備していく見通しは非常に暗い。そしたら複数の自治体で団結してやらざるを得ず、それが広域化という考え方です。
会長	○ 非常にわかりやすい説明でした。ありがとうございます。水循環計画は災害時の代替水源の確保に力を入れるとのことでしたが、上下水道の再編についても、取組んでいって計画に反映したい。
委員	○ 南河内農と緑の総合事務所としては、府内の農業用ため池で、特に防災上重要なため池を対象に、市の担当者と一緒に漏水の有無等、毎年目視点検を行っている。夏場子どもがため池に入って、事故が起こることもありますので、フェンスの高さや状態をチェックしている。 防災重点ため池は下流への影響度に応じて、A級、B級、C級とその他級に区別されており、大阪狭山市ではB級、C級ため池は14箇所あり、その他級のため池が22箇所ある。B級、C級については毎年1回点検しており、その他級のため池については5年に1回点検を行っている。点検の結果、特によくあるケースは、草刈りがされていないことや木が生えていること。その場合は漏水等の浸食があっても、すぐに見ることはできない。そういうところを、管理者にお知らせをして改善をお願いしている。
委員	○ また、年に1回ため池管理者研修会を行っております。水利組合の委員に、ため池の適正な管理の方法、どういうところをチェックするのか、万が一水位が上がっても取水する施設の老朽化によって水が出せないということがあればサイフォンという形で水を落とせるものもあるので、活用の研修を行っている。今年は2月20日（金）に大阪南河内府民センターで行う予定である。

委員	○ ため池・水路改修による長寿命化や防災減災対策として、ため池の改修や水路の改修などの大規模な事業について、農林水産省の補助事業は受益面積、農地の面積がある程度なければ対象にはならない事もあるが、大阪府単独の補助事業もあり、大阪狭山市では東池尻新池流入水路が老朽化していたというところで対象になり、2分の1の補助が出ました。
委員	大野ぶどうにつきまして、昨年8月8日、南海難波駅二階の改札出たところで南河内ぶどうマルシェを行いました。ちょうど万博期間ということもあり、国内外たくさんの方々に来ていただき、南河内の葡萄を直接取ってもらっていただきました。できれば現地に行っていたきたいため、直売所の案内をお配りした。南海電鉄にも沿線の活性化というところでご協力いただいた。結構多くの数を用意していたが、瞬く間になくなりました。
会長	○ 次の世代に関心を持ってもらうようにおいしい食べ物、ため池の水と関連付けて現地へ足を運んでもらうことは重要ではないか。広報で広めて、実際に体験していただくのは大事な取り組みだと思う。
委員	○ 富田林土木事務所は、かなりたくさんの項目があるため、簡単にご紹介できればと思う。まずは、狭山池上流の西除川改修工事、草沢橋の上流で改修工事を行っています。資料の赤い部分が河川工事で、雨が降らない11月から5月の間でしかできないため、令和7年度から8年度で約25メートル、対側も併せて50メートルの改修を行った。資料の黒い部分がすでに改修した部分、緑が今後の予定、黄色が昨年発注した部分です。他にも狭山池下流の北野田付近でも改修工事を行っている。 狭山池について、ダムとしての機能を持っており、過去のいろんな災害、平成29年の台風21号災害では、下流で3,4箇所の護岸崩壊があった。それを受けて狭山池土地改良区にご協力をいただいて、事前放流を行っており、平成30年から水位を約1メートル下げる、30万トンの事前放流を行っている。

	その後、国の指針が出た関係で、今は事前に 46 万トンの事前放流を行い、下流側で災害が発生しないように備えている。 大阪府の方では浸水想定図を公表しており、雨が降った時にどういう被害が生じるのかお知らせすることで、皆さんのリスク軽減に繋がっている。 水質浄化装置について今年カルテに追加させており、水質を守るプロペラ式で水を滞留させる浄化装置を二基設置しており、昨年度機能が低下した関係で、今年度から来年度にかけて更新工事を行う。2 月から機器の作成に入っている。今年度アオコが発生したということもあり、二基とも狭山池の中央に設置しているが、東除川の余水吐に近いところに一基移動させることで協議・調整をさせていただいている。 今年、狭山池博物館 25 周年ということで、大阪府、狭山池まつり実行委員会、大阪狭山市 3 者の主催で 25 周年の記念式典を大々的に開きたいと考えており、8 月 1 日の花火の時にそれができればということで調整している。 委員 ○ 農業委員会は農空間に関するもので、単年度区分で紹介できるものはあまりない。今現在大鳥池ではアオコの問題がある。大鳥池の水面には太陽光パネルが設置されている。水利としては、その部分が日陰になり、アオコの発生が抑えられるのではないかと考え、太陽光パネル設置に同意している。大鳥池に関しては水不足の心配は無い。 農業委員会の中でよく言われるのは、農機具が壊れた時の対応について。もし壊れたら対処のしようがない。 最近よく言われるのは、家庭菜園のことについて。水は基本的にお米を作るときに使うため、まずは家庭菜園を始める環境づくりが大切。家庭菜園の規模で販売を行うのは難しい。 農業に関して、高齢化が進み高齢者が水路の管理を行うのは難しい。やれることをやっている現状である。 委員 ○ 狭山池土地改良区として、東小と東幼稚園の並びにため池の跡地を持っており、小学生と幼稚園の子どもたちとさつまいもの農業体験をさ
--	--

	せていただいている。令和 6 年度からスタートしており、狭山池の浚渫土（西除川の流入口）を持ってきていただいたものを使って、まず畑づくりをしている。実際には苦勞もしており、いろんなゴミが紛れ込んでおり、生徒数が多いため畝の数も多く、掃除しても雨が降るとまた出てくる。そんなことをしながら、畑を作り、子どもに植え付けであるとか、成育観察を行っている。収穫の体験になると大きな声があがっており、大きいさつまいもが収穫できた、と楽しんでいただいた。 また、採れたサツマイモに関しては、ボランティアさん、お手伝いさんにも持って帰っていただいている。子ども達には本当は食べるころまで、一つのストーリーとして体験していただきたいが、小学校の方では衛生上の問題があり、調理できないとのことだったので、生徒には自宅に持って帰っていただいて、一月ほど寝かして、甘くなってから食べるように伝えた。ただ、幼稚園では人数が少ないこともあり、焼き芋可能で、ぜひお願いしますとの声をいただきましたので、我々も賑わい作りの一環として石焼き芋を始めており、焼き芋セットを自前で持っているため、持ち込ませていただいて、焼き芋体験をさせていただいた。焼く時から子供たちが喜んでおり、焼きあがって蓋を開けたら蒸気が上がり、皆さん本当に喜んでいた。 今回紹介させていただいたのは、狭山池の土を持ってきており、これが畑となり、養分となり、循環するということで今回の主旨と合致しているのではというところで紹介した。また、植付から収穫に至るまで、水やりとか収穫前の蔓とりとかボランティアや先生に沢山手伝っていただいた。 令和 6 年度に東小学校と東幼稚園で始めた企画ですが、北小学校の関係者も覗いていたようで、是非北小学校でもやってほしいとのことで、令和 7 年度からは北小学校も追加して、小学校が二つ、幼稚園が一つ、総勢 280 名弱というたくさんの子供たちに体験してもらうことになりました。今後も需要があれば継続していきたいと思っている。
--	--

会長	それから下池に関しては、用水のポンプも土地までは拾っている。地元の水利組合が調整していると思うが、狭山池の水を利用したというアピールの仕方は不可能ではないかなと思っている。
副会長	○ 皆さん情報提供ありがとうございました。これまで会議をやってきましたが、お互い何やっているか分からない中でこういった情報交換することは非常に良い機会だと感じました。 ○ 挨拶が遅れましたが、農学部の方から来ておりまして、農業のところの観点からというよりは、どちらかというと、今回扱っていただいております、水辺空間含め緑地の計画まちづくりを専門にやっております。皆さんの今日のお話をお聞きして、広報等を何とかするという観点で今回大阪狭山市に作っていただいた地図で、何かそういう皆さんの活動が可視化できるようになったらいいのにといいふうには話していた。この地図に皆さんの活動を現時点で載せているのですが、お話を聞いていると、参考になるのは大阪狭山市の防災マップが近いかなと思いました。現状のため池だったり、農業関連のお話も結構ありましたし、活動している小学校だったり、活動場所となっている、広場公園だったりっていうところも、ベースとして記載していただいて、実際の空間で皆さんがどういう活動をしていっているのかっていうところを載せていくと、ここに暮らしている方たちが、何かあったときに、どこに頼ればいいのかっていうところが、地図としてわかるような形で、この会議も必要ですし、さらにそういう地図上で、皆さんで共有するというのも、一つ広報として効果に繋がるのかなというふうに思っていました。 ○ 流域っていう話も計画のところで、最初の方でお話があったので、そういう意味で皆さんから、今日ご報告いただいたような、コミュニティの形成みたいな話、そのコミュニティの形成が、このあたりで、例えばここで何かあったら、どこの人に頼ればいいのかろうみたいなものも、地図を見てわかるといいのと思いつつ、なかなか可視化するって難しいと思いながらも、何かこう皆さんの活動、コミュニティがこことこ

会長	こがどう繋がっているのかわかるような形になるといいのかなと思いつつ、すぐに私もアイデアがあるわけではないのですが、今後皆さんとお話を聞きながら、そういう形でお力添えできればと思いました。以上です。 ○ ありがとうございました。 5 その他 情報交換及び質疑応答なし。 (以上)
-----------	---